

真宗大谷派

# 大谷専修学院

## 入学案内

「えらばず、きらわず、見すてず」の念仏の学校

3つの合言葉

- 1、「ここにいていい」
- 2、「ここには私の話を聞いてくれる人がいる」
- 3、「私はあなたが見える」



【全寮制一年間】

『入学案内』に関する問い合わせ

大谷専修学院

〒607-8087 京都市山科区竹鼻サイカシ町13-17  
TEL 075-501-5888 FAX 075-501-5858



## 本当の自分を求めて

20代 男性

自分が今ここに生きている意味が分からない。自分など別にいなくてもいいのではないか。自分が自分でなくてもいいのではないか。その場その場で自分を適応させていった、それが私の人生だ。学生の顔をし、野球部の顔をし、寺の息子の顔をし、坊主の顔をした。優しい人と言われれば、そうなりきった。周りが求めている顔に私はなった。確かなものがない私は自分というものがない。流されたまま、演じて過ごす人生はいつもどこか他人事のようにだった。でもどこかでそんな生き方は間違っていると思っていた。けど、どうすればいいかは分からなかった。そんな私に大谷専修学院は自分というものを見つめ直す時間を先生と友と一緒に与えてくれた。答えというのは見つからなかったのだけれども、簡単には答えがでない問いと、真剣に向き合わせてくれたこの場、一緒に考えてくれた人に感謝します。

## 僧侶としての使命

30代 男性

六年間のサラリーマン生活に区切りをつけ、一念発起してこの大谷専修学院に入りました。ここでの一年間は、毎日真宗の教えにふれながら、友と寝食を共にし、色濃くもあつという間の一年間でした。それは、30歳にして再び青春がよみがえってきたようで、楽しく刺激的で、精神的にも肉体的にも若返ったように感じます。専修学院はまさに「人間への尊敬と信頼を回復する場」でありました。しかしながら私たち真宗大谷派教師にとって、いかに卒業してからも専修学院での生活を実践し、まるごとの自分を受けとめていけるか、教えにふれその感動を伝えていけるかが大切であり、その自覚と実践こそが私の使命だと思います。この学院での出会いに感謝し、これからもみなと共に僧侶として歩んでいきたいと思っています。

## 御同朋、 愉快的な同級生たち

50代 女性

専修学院での一年間は、私にとって夢のような日々でした。この年齢になって、また、主婦という立場であるにもかかわらず、家から離れて仏教を学ばせていただいたことに、心から感謝しています。何といてもたくさんの仲間がいて、机を並べて楽しく授業が受けられたこと、これはもう言葉では表現できないくらい尊いことで感動的でした。その仲間は10代～70代の様々な年齢の方々でした。教えてくださる先生方も、若い方からベテランまで個性豊かな方々揃い。私は浄土真宗のお寺に縁あった自分を、心から喜びました。「みんなちがって同じ道」仏道を歩む先生方、仲間たちに出会えて、安堵感や希望を抱きました。私の年齢の違った御同朋、愉快的な同級生との学院生活を誇りとして、私はこれから生きていきます。

### 受験資格について

高等学校を卒業した者、及び高等学校卒業と同等以上の学力があると認められる18歳以上の者。

### 入学へのながれ

- 1 自坊の跡継ぎを考える、一緒に学ぶ仲間が欲しい、仏教を学びたい、生きることを学びたい
- 2 ホームページの閲覧や卒業生、住職、学院に相談してみる
- 3 大谷専修学院に電話（TEL075-501-5888）をかける「入学願書」を取り寄せる
- 4 出願（1月～3月中旬に郵送）
- 5 入学試験（4月初旬）翌日合格発表・入学説明会
- 6 入学式（4月中旬）

## 大谷専修学院

◆ホームページ(同窓会「青草びとの会」)

<http://ohtaniaokusa.com/>



◆入学案内(東本願寺)

<http://www.higashihonganji.or.jp>



JR・京阪・地下鉄山科駅より徒歩15分  
地下鉄東野駅より徒歩10分